

学校自慢

482



教育に新聞を



田辺工業高校(田辺市) 弓道の得点板を製作



田辺工業高校(田辺市あけぼの)機械科の生徒が市立弓道場(同市目良)で使用する弓道の得点板を製作。指導した同校の立花昌史教諭(44)がこのほど、市に完成品を引き渡した。

「地域に利用してもらえるものを作る」という課題研究で作った。市の依頼を受け、2015年度に当時の3年生(8人)が始め、16年度の3年生(8人)が引き継いで、卒業前の1月に完成させた。得点板は遠的用。鋼板に得

△生徒が製作した得点板を田辺市職員に引き渡し、説明する立花昌史教諭(右)
＝田辺市あけぼの＝

点を表示する正方形の穴を開け、骨組みを作って色付けした。切断用の砥石(といし)を取り付けた機械で、穴をきれいに開ける作業が難しかったという。

国体近畿ブロック予選の遠的は14年度、的中から得点制に変わった。18年度の予選会場である市立弓道場に得点板を設置してほしいと、県弓道連盟から市に要望があったという。

完成品を受け取った市スポーツ振興課は「国体の予選で使用するのはもちろん、地元の大大会や練習、合宿でも使い、県の弓道がもっと発展するよう活用していきたい」と喜んだ。

製作した一人で、3月に卒業し、大阪府でサービスエンジニアの職に就いた橋本和樹さん(18)は「自分たちが作ったものを誰かに使ってもらえるのはうれしい。いろいろな器具を使って協力できた経験がこれからの人生に役立つと思う」と話した。

(藤井楓)